

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」名東校			
○保護者評価実施期間	2025年11月8日 ～ 2025年12月6日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	豊富な知識、経験を持つ職員配置	保育士（保育園経験者や他事業所経験者含む）、心理系資格保持者、社会福祉士など様々な専門分野、経験のある職員が所属しており様々な視点、経験からお子様をアセスメントし適切な支援の実施に向けて協働している。	社内外の様々な研修に参加しそれぞれが所持している専門性の研磨や新たな知識の獲得を目指し、支援の質の向上を目指している。
2	個別療育	職員とお子様によるマンツーマンでの個別療育を当事業所では基本としている。ひとりひとりのニーズや特性に合わせてオーダーメイドでプログラムを作成し支援を実施している。	個別療育を基本としつつ季節の行事や祝日を使ったイベントを実施し小集団での支援の機会も企画していく。
3	デジタルツールを用いた情報共有	自力通所のご家庭にはLINEを用いてフィードバックを実施している。また、職員同士の情報共有ではミーティング時の口頭共有の他、社内用チャットツールを用いて文面でも情報を共有している。	お子様とも保護者様承諾のもとLINE等で事業所と直接やりとりを行い、やりとりや文章でのマナーといった支援につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内が手狭	個別療育に使用するスペースを優先的に確保した結果、待合スペースが手狭になり時間帯によってはフィードバック時に混雑が生じてしまっている。	フィードバックの際は待合のみでなく状況に合わせて療育室で実施するなど混雑を緩和するための取り組みを検討していく。また、必要に応じて都度模様替えを実施する。
2	お子様同士の交流の少なさ	個別療育を基本としているため集団活動が少ないこと、ならびに支援時間の短さ（基本1時間）が原因と考えられる。また、地域の方向けのイベントを今年度は実施できていない。	イベント活動を通して利用者同士だけでなくきょうだい児が参加できる企画を今後も行うようにする。また、公園でのイベント開催など外部の方と関わることができる機会を検討する。
3	防災訓練の周知不足	職員による防災訓練の周知不足。お子様が参加する訓練も実施しているが個別療育の特色もあり参加者が限られている。	ブログやSNSを用いて防災訓練の実施状況を発信していく。また、お子様に参加してもらえる訓練の数も増やすなど新たな周知の方法を検討していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」名東校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

9

回収数

8

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	2		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8				・トイレが、大人使用なので小さい子供には使いづらいかと思いますが、建造物都合でするので仕方ないとは思っています。	・ご意見ありがとうございます。補助便座の使用など、小さなお子様にも安心していただける環境整備を引き続き進めて参ります。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7			1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7			1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3		2	3		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	2		2		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	6	2				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6			2		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5		2	1	・兄弟との関わり方は、他者とは違うため、そういった機会があれば参加したいと思います。	・ご意見ありがとうございます。保護者会の開催やきょうだいの方にも参加していただけるイベントを今後も引き続き企画して参ります。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7			1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	7			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6			2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1		3		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	1		1		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	8					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	7			1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	8					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」名東校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別療育が実施できるようお子様と職員が1：1で関わる可以保证している。	待合スペースがやや狭く、時間帯によってはフィードバック時に混雑することがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	人員配置基準を満たしている。	人事異動に伴い職員数が減ったままになっているため、新たな人員の配置が必要である。採用担当者に常に必要性を伝えている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		踏み台などを用いて、身体のお小さなお子様でも安心してもらえるような配慮をしている。	入口の階段やトイレの入口など一部の個所に段差がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		療育室は装飾等を無くし、視覚刺激を少なくしてお子様が集集中しやすいような環境にしている。	完全な個室が無いため他の支援の声が聞こえてくることもある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		簡易パーテーションを必要に応じて使用するなど、職員とお子様と1：1で関わるようにしている。	完全な個室が無いため他の支援の声が聞こえてくることもある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		1on1研修など法人研修や地域ユニット毎の他事業所連携をした業務改善を行っている。	特に問題なし。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		玄関マットの配置位置の変更など、評価表を通していただいた意見を速やかに反映している。	混雑時の対応や人員の問題など、今後検討しなければならない未解決事項もある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日ミーティングを行っており、様々な意見を出し合いながら日々の業務を行っている。	特に問題なし。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	社内で内部監査を1年に1回以上実施している。	第三者評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内の研修ならびに名古屋社協主催の研修、その他資格取得の研修を受講している。	特に問題なし。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所HP内ブログ記事にて公表している他、事業所内で掲示している。	社内事業所で公表方法を統一していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		見直し作業も行い更新を行っている	特に問題なし。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画書は個別支援会議のもと、児童発達支援管理責任者と直接支援に係る職員間で話し合いながら作成している。	特に問題なし。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画、専門的支援実施計画を参照してから支援を実施している。	特に問題なし。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		複数職員が確認し、理解を統一している。	特に問題なし。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援における5領域に対応した支援目標を定め、また家族支援や移行支援に関しても適切な目標を定め実施している。	「地域支援・地域連携」に関しては目標の策定や実施ができていない。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別・小集団・障害特性別など活動プログラムの立案に各指導員同士が連携している。	特に問題なし。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		児童に合わせた内容に取り組めるよう支援している。	お子様によっては特性を考慮した結果、固定化している方もいる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		事業所の特性上個別活動が主で支援を実施している。	時折集団活動も実施しているが、個別活動が主であるため集団活動の機会が少ない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		申し送りなど活用している	職員が減少したことに伴い、打合せ回数が減少気味である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		翌朝のMT（緊急時は当日中）に共有している。また、社内チャットツールを用いて書面でも記録を残している。	職員が減少したことに伴い、打合せ回数が減少気味である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		ツールアプリを活用して記録を作成している。また、社内他校舎と記録の書き方、残し方について話し合い必要に応じて改善を行っている。	特に問題なし。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		個別支援計画見直し時には必ずモニタリングを実施している。	特に問題なし。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議、事業所間連携加算に係る会議など、主に児童発達支援管理責任者が出席している。	特に問題なし。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		診断書などは必要に応じて保護者様から共有いただいている。また、保育園訪問等も必要に応じて実施している。	医療機関と直接連携はできていない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		希望のあったお子様に関しては保育園訪問を実施し情報を共有している。	お子様によっては連携が不十分な方もいる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		希望のあったお子様に関しては保育園訪問を実施し情報を共有している。	お子様によっては連携が不十分な方もいる。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		研修の場などを通して助言をいただいていることもある。	機会が少ない。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		機会無し。	利用者、きょうだい児を除くお子様と関わる機会が無い。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援終了後に保護者様とフィードバックを行っている。自力通所のお子様に関してはLINEにてフィードバックを実施している。	特に問題なし。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者会の開催や相談支援を適宜実施している。	家族支援の実施が不十分な方もいる。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や受給者証更新時に利用上限月額が変更になった家庭に対しては必ず確認をするようにしている。	特に問題なし。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者様のニーズやお子様が必要で事業所で行いたい活動を常に確認しながら個別支援計画を作成している。	特に問題なし。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画は保護者様に説明を行い直接同意を得ている。	特に問題なし。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時に最近の様子を確認し、必要に応じて家族支援につなげている。	家族支援の実施が不十分な方もいる。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会開催の他、きょうだい児が参加できるイベントを定期的に開催している。	開催頻度は少なく定員もあるため参加できる人数が限られている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		いただいた相談は職員間で必ず周知、相談を行い対応している。	特に問題なし。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログ、Instagram、ティックトックを運用している。	特に問題なし。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付き書庫等で保管している。	特に問題なし。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		その方々に合ったツールを用いるようにしており、その上で都度確認しながらお伝えしている。	特に問題なし。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	過去「フリー開校」という形で未契約者対象のイベントを実施した。	今年度は開催していない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		公式LINEや事業所掲示物などで最新の情報を周知できるように努めている。	周知が不十分なものがある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		備蓄品の点検や職員向けの防災訓練を実施。利用児童に防災学習を必要時行えるように努めている。	特に問題なし。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		見学時に確認している。適時、内服薬の変更・増量あれば情報提供をお願いしている。	特に問題なし。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		見学時に確認している。個別対応している。	特に問題なし。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		最低年間2回はお子様にも訓練に参加してもらっている。また、各部屋にヘルメットを設置している。	特に問題なし。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		緊急連絡先を把握している他、災害時の避難先など各家庭に周知している。	特に問題なし。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		実施している。	特に問題なし。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		最低年間2回以上の研修を実施している。	特に問題なし。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		ご家族に相談をし了承を得てから取り組んでいる。	特に問題なし。